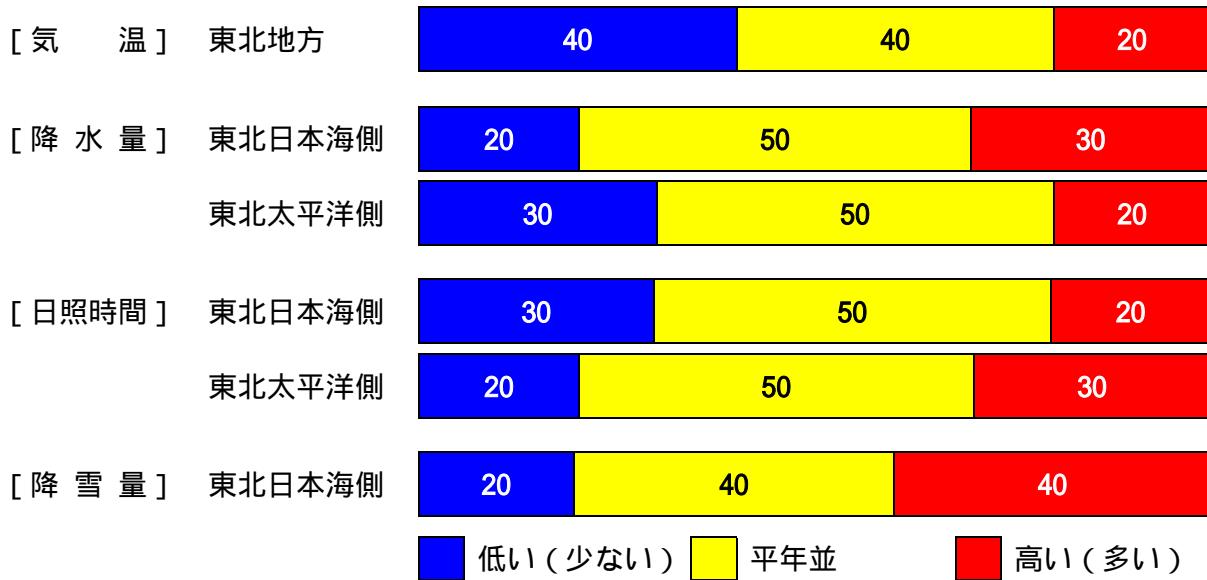


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:1月5日~2月4日)

平成14年1月4日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「平年並」か「低い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「高い」の可能性は 20% と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

期間を通して冬型の気圧配置が現れやすいでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (1月5日～1月11日) 低気圧や気圧の谷が周期的に通過し、通過後は冬型の気圧配置になる見込みです。このため、東北日本海側では曇りで雪や雨の降る日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

2週目…………… (1月12日～1月18日) 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では、平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

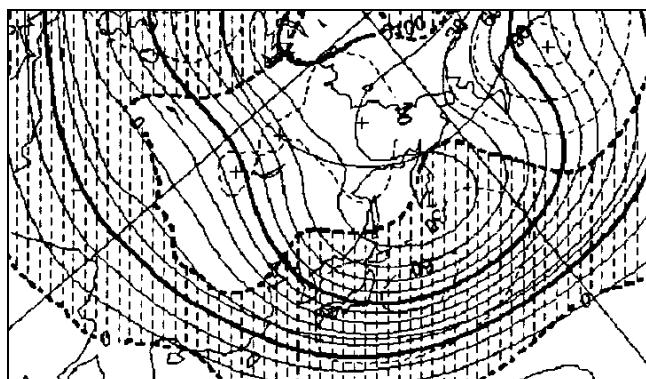
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日

3～4週目…………… (1月19日～2月1日) 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年同様、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

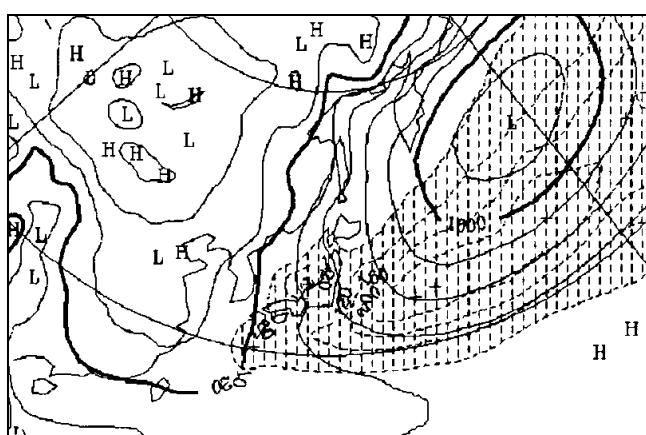


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 每、偏差 : 30m 每、陰影部 : 負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、偏西風は大きく蛇行し、バイカル湖付近とアラスカ付近は正偏差、日本付近は負偏差に覆われる。このため、日本付近へ寒気が南下しやすい。

週別（図略）では、1週目と3~4週目は、日本付近は広く負偏差に覆われるが、負偏差の中心は西日本。2週目は、大陸から東日本にかけては正偏差、北日本から東海上にかけては負偏差に覆われ、北日本は寒気の影響を受けやすい。



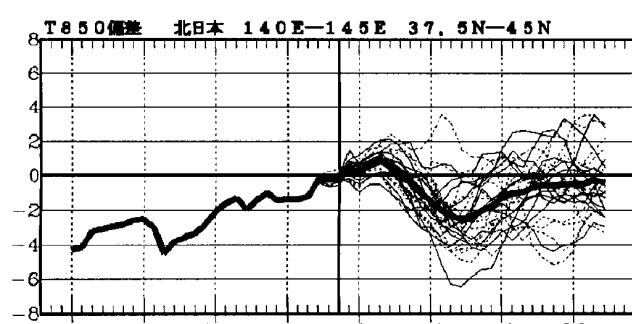
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸には優勢な高気圧があり、アリューシャン付近には発達した低気圧があって、日本付近は冬型の気圧配置となっている。

まとまった降水域は日本の東海上だが、日本海には冬型の気圧配置に伴う降水域が広がる。

週別（図略）でも、冬型の気圧配置が続く。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）
の平均値

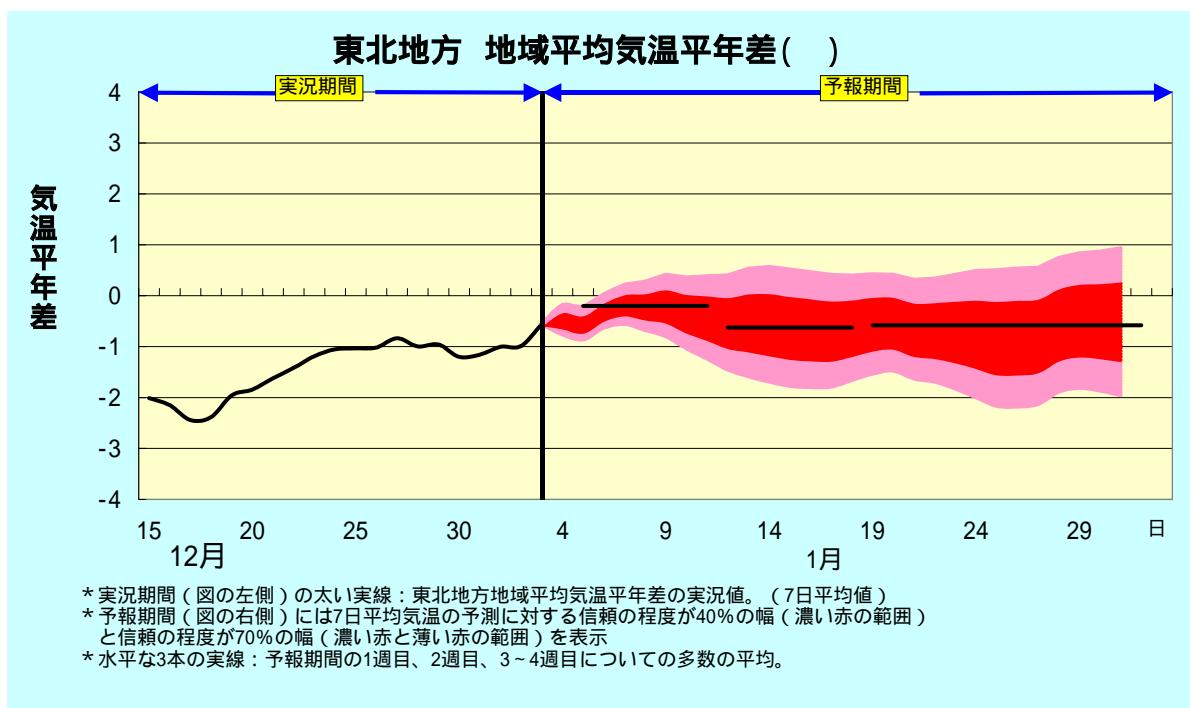
・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目半ばまでは平年をやや上回るが、その後下降し2週目にかけて平年を下回る。3~4週目はおおむね平年並。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「平年並」、3~4週目「低い」を予測している。予報は他の予想資料から、2週目を「低い」、3~4週目を「平年並」に修正する。1週目は予測どおり。

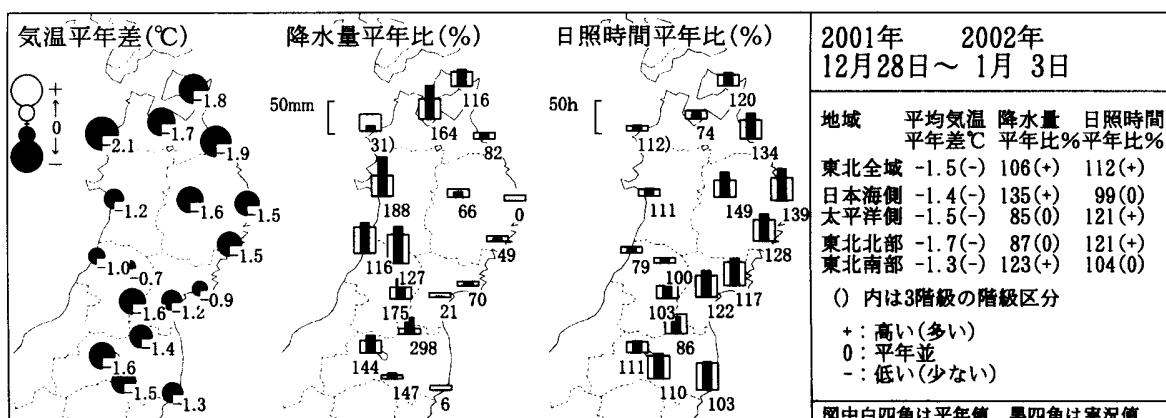
なお、予報の信頼度は大きい。



4. 最近1週間（12月28日～1月3日）の天候の経過

この期間、12月30日と1月1日に前線が通過し、前線の通過後は冬型の気圧配置となった。このため、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は概ね晴れた。また30日は寒冷前線の通過に伴い、所々で発雷し、暴風となったところもあった。

平均気温は、東北地方で平年差-1.5と低かった。降水量は、東北日本海側で平年比135%と多く、東北太平洋側で平年比85%と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比99%と平年並、東北太平洋側で121%と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)